

目的 昭和20年代から、古典的な静電位(気)負荷療法が復活し、静電位発生装置も数種新しいものが開発されている。静電位負荷を信奉する人達の間では、日常健康法としても盛んに利用されている。今回、私達はこの方法を医学的治療に用いた最初とされている装置を得ることが出来たので、生体に対し如何に影響を与えるかを知る目的で、本実験を試みた。

方法 全身的な影響を握む目的で、今回はエネルギー代謝を示標として行った。被験者は、実験目的を理解した健康成人女子2名である(月経期間中は避けた)。静電位発生装置は「タカタスタート」(東芝化学工業製)を用い、負荷電圧は300Vの定圧とした。採取した呼気ガスの分析は、レスピライザー-BM-79(フクダ産業)を用いた。実験は電気遮蔽室で行いその環境は、室温20~26°C、湿度55±5%である。被験者は食後3時間以上を経過し、実験前1時間は安静にした後電氣的に完全に絶縁されたベットに仰臥し、実験を開始した。(1)30分間安静時、続けて30分間電位負荷(又は無負荷)、更に続けて30分間その逆条件。(2)30分間安静時、続けて30分間電位負荷(又は無負荷)の後30分間休憩し、30分間安静時、続けてその逆条件である。電極は臀部下にあて、この間被験者には電位負荷の有無は分からないよう遠隔操作を行った。また、電位は陰極を主としたが陽極をも行い比較した。呼気採集は20分後から10分間である。

結果 静電位300V負荷時と無負荷時の場合とのエネルギー消費量の差については、見るべき相違は認められない。陰電位、陽電位とも同様の結果を示した。